

平成 27 年度第 1 回国立大雪青少年交流の家施設業務運営委員会議事要旨

日時：平成 27 年 11 月 12 日（木）15:10～15:50

場所：国立大雪青少年交流の家本館第 1 研修室

運営委員出席者：笠井委員，大島委員，山根委員，浜田委員代理（今瀧委員），永澤委員，浪岡委員，松本委員代理（室委員），片岡委員，服部委員，山中委員，竹村委員，松倉委員

計 12 名

運営委員欠席者：目黒委員，坂東委員，植田委員，瀬川委員，西海委員，十川委員，尾崎委員，村上委員

計 8 名

大雪青少年交流の家出席者：阿部所長，穴澤次長，松浦事業推進室長，村澤企画指導専門職，久保企画指導専門職，柴田企画指導専門職，安藤事業推進室主任，西尾事業推進室主任，秋山管理係長，澤田総務係長，三田総務係員

計 11 名

（●事務局 ○議長 □委員）

●開会宣言（穴澤次長）

会議日程，欠席委員の報告，交代施設業務運営委員の自己紹介の後，委員会規則第 6 条の規程に基づき，笠井委員長の進行で議事開始。

○議長

議題 1 の平成 27 年度国立大雪青少年交流の家運営計画に基づく中間報告について事務局より説明をお願いしたい。

●事務局

上半期の運営について，「新しい公共」型の管理運営，利用状況，教育事業，管理運営，北海道「体験の風をおこそう」運動推進協議会及び 50 周年記念事業関係についてパワーポイント資料に基づき説明。

< 「新しい公共」型の管理運営 >

- ・冬のレクスポーツの祭典について，宮様国際スキーマラソンと日程が重複していることから日程が変更となっている。協働をいただく委員についてはご留意いただきたい。

< 利用状況 >

- ・利用者獲得に向け 9 月から 10 月にかけて新規事業（びえいワイルドキッズ，初めての富良野岳，びえいアスリートキッズ）を実施。

< 教育事業 >

- ・平成 26 年 8 月 29 日に「子供の貧困に関する大綱」が閣議決定され，国を挙げた子供の貧困対策が必要とされている課題の対応として，体験活動のノウハウや全国 28 の教育

施設と関係機関が連携して、総合的な取組みを実施。

①体験の風キャンプ in ゆーすぴあ（生活・自立支援キャンプ）

- ・旭川育児院 7/29～8/4（76名）※3回に分けて実施。
- ・富良野国の子寮 8/3～8/5（32名）
- ・美深育成院 1/6～1/8（30名程度）

②学生サポーター支援

児童養護施設または母子生活支援施設出身の大学生や大学進学を予定している高校生を対象に、国立青少年教育施設における「学生サポーター」としての業務に対して、毎月一定額の報酬（10万円/月）を支給。大雪では1名支援。

<管理運営>

- ・平成28年度にバルーン型投光器等のクロスカントリー用備品を整備し、クロスカントリーなどの夜間練習を可能とすることで利用者の獲得を目指していく。（977万円）

<北海道「体験の風をおこそう」運動推進協議会>

- ・地域に密着した推進員を養成し、体験の風をおこそう運動推進員として全道的展開を実施。現在46名の登録者がおり、推進員と連携し、「体験活動の推進」に係るPR動画を作成していく。

<50周年記念事業関係>

- ・寄附金については企業向けとして記念誌や館内掲示板への広告掲載（5万円～30万円程度）又は寄附を考えている。個人向けとしては一口5,000円とした振替払込書の作成を予定している。

なお、企業向けの広告掲載の設定金額について、本日の管理運営部会において、再度検討が必要となった旨の報告があったことから今後、再検討を行う。

○議長

事務局より説明のあった事項に係る意見・質疑については、この後の各部会の進捗状況等の説明後に一括して行うこととする。各部会については5分程度で広報部会、事業部会、管理運営部会の順番で説明をお願いしたい。

●各部会の進捗状況について、パワーポイント資料に基づき説明。

<広報部会>

1 利用促進方針に関すること

- ・11月1日現在、利用者獲得に向けた広報活動の展開中。
- ・企業・大学・高齢者大学等を訪問し、10月11月の閑散期に13件の新規団体獲得。
- ・企業の会議・会合等への利用促進を行い、4団体が施設利用。

2 広報活動の方針に関すること

- ・委員と協働した特別企画事業（婚活イベント：たいせつなフレンズ）を7月上旬に1泊2日で開催し、53名（男性28名、女性25名）が参加。

3 広報活動の充実に関すること

- ・利用促進広報物作成に関する研修を2月の施設整備日を利用して実施予定。

- ・新規広報物として大雪概要のリニューアル，大学誘致及び天文部誘致パンフ作成。
- ・50周年カウントダウン，施設周辺最新情報，主催事業案内，FACEBOOKをホームページで更新。
- ・今後，職員一芸プログラムの見直しを行う。
- ・利用者アンケートの満足とやや満足の比率が昨年度と逆転しているため，原因や対応策について確認を行う。

<事業部会>

1 教育事業等の企画運営に関すること

- ・企業や民間団体等各機関と連携した8事業の実施。
- ・子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業「ゆーすフェスタ 2015」に永澤委員，服部委員，西海委員，村上委員の4名が参画。
「大雪冬のレクスports祭典」には7名の委員が参画対象となっている。
- ・青少年教育施設を活用した国際交流事業の企画及び事業評価の実施として2回の企画委員会を開催やプログラムの企画と評価，グローバル・アクションプロジェクトの実施を行い，日本人参加者の「グローバル人材」の要素が向上。
- ・道内4ブロック23施設の児童養護施設職員を対象に体験活動を紹介。
- ・北海道「体験の風をおこそう」運動推進委員養成のための研修カリキュラムの策定し，市町村教育委員会や団体と連携した研修会を10会場で開催。
- ・「体験の風をおこそう」運動の普及啓発を行い，昨年度に引き続き北海道179全市町村の事業エントリーを達成。

2 研修支援事業に関すること

- ・ハイキングコースの点検及び安全管理やコース図の修正など危機管理対策の徹底を図った教育環境の整備を行った。冬季はクロスカントリーコースの環境整備を予定。
- ・高校・大学等の職場実習やインターンシップ，日本体育大学から社会教育実習1名の受入を行った。

3 連携促進事業に関すること

- ・北海道青少年教育施設協議会と連携した研修会（青少年教育スキルアップセミナー）を開催し，大島事業部会長，瀬川管理運営部会長が講師として参画。
- ・各市町村教育委員会等と連携した「土曜教育支援活動プロジェクト」，「健康・体力向上応援プロジェクト」，「生活リズム向上応援プロジェクト」，「読書推進応援プロジェクト」などの体験活動・生活習慣・読書習慣定着の取組や事業の実施。

<管理運営部会>

1 受益者負担の適正化

- ・講師室にアメニティ設備を導入し，サービスを向上した上で平成28年10月から一人1泊1,200円の使用料を導入する。（管理運営部会承認済）
- ・バス燃料費徴収やプール使用料について平成27年度中に検討を行う。

2 適正な人員配置及び優秀な非常勤職員人材の確保

- ・安全・安心な施設の維持管理の実現や若手職員の模範として優秀な技術を持つ技能補佐員の雇用延長を機構本部へ要望中。

- 3 施設・設備の長期計画（施設マスタープラン）の策定
 - ・体育館等非構造物改修（42,717千円）及び温泉管破損緊急修繕（540千円）の予算化が実現した。今後、施設マスタープランの策定を行い機構本部へ提出する。
- 4 50周年記念事業に向けた事業計画及び寄附金獲得
 - ・平成28年10月16日（日）に式典・祝賀会を行う準備を進めている。
 - ・記念事業について関係機関との調整や実施内容の検討中
 - ①北海道青年団体協議会青年大会（H28.7.2（土）～3（日））
 - ②全道高齢者大学移動学園祭（H28.7.4（月）～5（火））
 - ③北海道産業高校の祭典（H28.9又は10月（ゆーすフェスタの中で実施）
 - ④体験の風をおこそう全道フォーラム（H28.11.5（土）～6（日））
 - ⑤青少年のための火山防災フォーラム（H28.9.25（日））
 - ・イメージキャラクターについて11月30日まで募集し、現在200件以上の応募がある。
 - ・今後の予定として地元企業やOB等への寄附金の協力依頼の開始や事業内容の企画を行う外部組織として企画委員会の設置を行う。

○議長

事務局からの説明及び各部会からの報告等について、意見・質問等があればお願いしたい。

□委員

特になし。

○議長

上半期の運営の説明の中で、プロジェクトチームを組織し、委員が当事者として参画する「公共型」の運営を展開する。となっているが、本日開催されたレストラン運営委員会に参画された委員から意見・感想等について発言をお願いしたい。

□委員

施設職員と雪印パーラーが共に利用者アンケートなどを基に改善を加えながら、連携を図っていることが感じられた。

また、レストランにあっては、利益の面も含め努力されながらサービス提供していると感じた。新たな課題は残っているが引き続き施設や運営委員と連携・協力していただきたい。

○議長

その他意見・質疑等がなければ以上で予定していた議事を終了する。

□委員

特になし

全体会終了。